SuFRE News スフレ通信

https://www.shinshu-u.ac.jp/dei/

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY
DE&I 推進委員会
DE&I 推進センター

No.57
2026 Nov.
11

▶ クロストークカフェ＋理工系進路を考える女子中高生のためのワークショップ in 松本

10月10日、信州大学松本キャンパスで「クロストークカフェ＋（プラス）」を開催し、女子中高生23名と保護者13名が参加しました。企業で活躍する女性研究者・技術者による講演や、数学・物理・化学・生物・地学の実験・実習を通じて、理系の学びや仕事の魅力に触れました。また、大学院生との対話や将来の夢を考えるワークショップを通じて、自分の興味や将来の進路について考えました。



▲大学教員や大学院生のサポートを受けながら、実験に臨む参加者



▲大学院生との対話を通じて、将来の夢や進路について考える参加者

▶ 医学部附属病院　病院長インタビュー

令和8年4月1日に医学部附属病院長に就任された関島良樹（せきじまよしき）先生へ、DE&I推進センター長の関利恵子センター長がDEI推進の現状等についてインタビューを行いました。



〈DE&Iをめぐる現状と課題――「誰もが適した仕事に就ける」職場へ〉

関DE&I推進センター長（以下「関」）：現在の病院における男女の割合や、男女の職場環境について教えていただけますか。

関島病院長（以下「関島」）：女性の医学生や女性医師、職員は年々着実に増えています。一方で、以前は女性が多かった看護師は男性の割合が増えてきています。「この仕事は男性、この仕事は女性」という固定的な考え方はなくなりつつあり、男女を問わず、その仕事に就きたい人、適した人が仕事に就ける環境が整ってきています。

関：男女差がなくなることで、職場では何か変わってきたことはありますか。

関島：以前の医師の世界には「休んではいけない」「家庭より仕事を優先する」という雰囲気がありましたが、今では女性だけでなく男性も、ライフイベントに応じて一定期間休むことが当たり前になってきました。そうしたことを見据えた人事配置もできるようになってきています。また、育休から復帰した女性の方もおひさま保育園等を利用しながらキャリアを途切れさせることなく、着実にステップアップしていけるようになりつつあります。ただ、課題として、女性が増えてきた一方で、教員や管理職に占める女性の割合はまだ十分とはいえません。特に臨床の教授には女性がいないのが現状です。管理職になるには相応のキャリアと時間を重ねる必要がありますが、新しい時代の中で、着実に実績を積んできた若い方々が、管理職として活躍する日はそう遠くないと考えています。

〈ワーク・ライフ・バランス――働きやすさと医療安全を支える心理的安全性〉

関：病院長として、目指していきたい職場環境についてお聞かせいただけますか。

関島：目指しているのは、心理的安全性の高い職場環境です。立場や職種、経験に関係なく、自分が感じた懸念やアイデアを発信でき、発言したことで批判されるのではないかと恐れずに話せることを大切にしています。これは教育や研究だけでなく、医療安全にも非常に重要です。例えば手術室で、看護師が「少し変ではないか」と感じたときに一言伝えることで、医療事故を防げることがあります。そのためには、気づいたことを言いやすい環境と、相手の発言をきちんと受け止める環境の両方が必要です。

そのため、チーム医療のためのプログラム「TeamSTEPPS」を定期的に開催するとともに、インシデントも収集し、小さな出来事の中にも心理的安全性に関わる課題がないか、みんなで考えることを大切にしています。

関：医師の働き方改革も進んでいますが、そのあたりの現状はいかがでしょうか。

関島：働き方に対する考え方はかなり変わりました。かつてのように「教授が帰るまで帰ってはいけない」といった風潮は薄れ、現在は業務が終われば各自帰宅するなど、以前に比べると随分変化したと感じています。ただ、課題となるのは外科系の医師不足です。特に消化器外科は、長時間手術をはじめとする負担の大きさから希望者が少なく、問題となっています。人手不足の影響で、時間外勤務を減らそうにも簡単には減らせないのが実情です。そのため、業務のタスクシフトを進め、事務作業を補佐するドクターズクラークの増員や、医師の指導のもとで一定の診療行為を行う診療看護師の採用などに力を入れています。

関：先生ご自身は、ワーク・ライフ・バランスをどのように取られていますか。

関島：仕事量は多い方だと思いますが、好きなことをしたり体を動かしたりして、ストレスをためないよう心がけています。夏場は土日にプールで泳ぐなどしてリフレッシュしています。

〈これから目指す病院――互いに支え合う「チーム」でより良い医療へ〉

関：信州大学医学部附属病院の良さは、どんなところに感じていますか。

関島：一番の強みは、診療科同士の垣根が非常に低いことです。診療科の枠組みを超えた共同研究や連携プロジェクトがとてもスムーズに行われています。限られた医療資源を活かし、助け合えるチーム体制を整えながら、地域の医療と人を支える病院であり続けたいと考えています。そうした職場をつくることが、働きやすさだけでなく、患者さんの安全や、より良い医療にもつながっていくと思います。

8月18日に取材したインタビュー記事を抜粋掲載しております。インタビュー全文はDE&I推進センターウェブサイトからご覧いただけます。

NEWS & TOPICS

● 前期講義「人生 100 年時代の DEI」が終了しました

全15回、毎回異なるテーマと講師を迎えるオムニバス形式で開講された本講義。受講生アンケートでは、最も印象に残ったテーマとして「SOGIの多様性とLGBTQ+」に多くの感想が寄せられました。



【「SOGI の多様性と LGBTQ+」の感想】

★SOGI という言葉を初めて詳しく学び、多様性についての考え方をより深める良い機会となりました。

★SOGI や LGBTQ+に関する支援・啓発活動を行うNPOを立ち上げられた星野先生の姿に刺激を受けました。授業を通して、企業と LGBTQ+の関わり方など、新しいことを多く学ぶことができたと同時に、今回の機会を活かして行動に移したいという気持ちが強まりました。

★社会でマイノリティに当たる人たちにはどのような人がいるのかが、図などを用いてわかりやすく説明されていて大変印象に残りました。

【講義全体の感想】

★毎回違ったテーマ・講師の方による講義で、いろいろな視点からDEIや自分のキャリアについて考えることができて良かったです。

★DEIの多くの授業を受けて非常に視野が広がったように感じています。貴重な機会を設けてくださりありがとうございました。

● 令和 8 年度アンコンシャスバイアス研修を実施中（学内限定）



無意識の決めつけや思い込みに気づき、多様性を活かした環境をつくるためのe-learning研修を実施しています。動画講義（約18分・講師：渡辺整氏）を通じて、日々の行動や関わり方を振り返る機会として、ぜひご視聴ください。受講対象やeALPSでの受講手順の詳細はアンコンシャスバイアス研修のご案内をご確認ください。

● 令和８年度（10-3 月期）研究補助者制度の利用者が決定しました

令和８年度（10-3月期）研究補助者制度の利用者を厳正な審査のうえ決定しました。

選考結果	決定者12名（女性７名、男性５名）

※制度の詳細は、研究補助者制度をご覧ください。

● リスタートアップ研究費支援制度の利用者が決定しました

令和8年度リスタートアップ研究費支援制度の利用者を審査のうえ決定しました。

選考結果	利用決定者２名（女性１名、男性１名）

※制度の詳細は、リスタートアップ研究費支援制度をご覧ください。

-第9回-
活き“粋”コラムリレー
Column Relay

このコラムは、本学で“活き活き”働く教職員がリレー形式でお届けする“粋”なコラムです。

やまぐち だいすけ
山口 大輔 助教 ｜ 学術研究院（保健学系）

家族構成

妻・長女（16 歳）
長男（12 歳）・次男（6 歳）

あなたのリラックスタイムはいつですか?

ビールを片手に家族と話す時間です。特に、成長した長女や長男との会話は、ますます貴重なものになっています。



▲ノック！とれた！

親子で挑戦、親子で成長―野球がくれた豊かな時間―

最近、私の生活を豊かにしてくれているのは、次男（年長）の野球です。次男は「横田ボーイズ」という少年野球チームに所属し、年上の仲間に優しく教えてもらいながら練習に励んでいます。楽しそうにキャッチボールやノック、トスバッティングに取り組む姿を見るのが、私の休日の楽しみです。その流れで、私も練習試合や公式戦の審判を務めており、2月には審判講習会を受講する予定です。親子で新しいことに挑戦するなかで生まれる一体感を、かけがえのないものと感じています。また、仕事も暮らす地域も異なる保護者の皆さんとの交流は新鮮で、多くの学びがあります。次男の姿から、「まだ小さいからできない」と親が可能性を決めつけないことの大切さにも気づかされました。いつか「一緒に野球をしよう」と言われなくなる日が来るからこそ、今この時間を大切にしたいと思っています。興味のある方、横田ボーイズで一緒に楽しみませんか。女の子も大歓迎です！



▲右が私（ノックの補助）



▲打てた！



▲夏合宿も親子で参加

お問い合わせ
信州大学　DE&I推進センター（SuFRE）

〒 390-8621 松本市旭 3-1-1
内線 811-2150 , 811-2140
TEL 0263-37-3150　FAX 0263-37-3314
mail sufre@shinshu-u.ac.jp

教育学部分室
〒 380-8544
長野市西長野 6- ロ
内線 831-4018

工学部分室
〒 380-8533
長野市若里 4-17-1
内線 821-5693

農学部分室
〒 399-4598
上伊那郡南箕輪村 8304
内線 851-3120

繊維学部分室
〒 386-8567
上田市常田 3-15-1
内線 841-5031

信州大学　スフレ　検索

バックナンバーはこちらからご覧いただけます。

▶ https://www.shinshu-u.ac.jp/dei/article/sufre/